



東村立 高江小学校
 学校便り【虹】
 2021年10月①
 発行責任者 校長 宮城達也

祝♥ 新しいお友達が入学しました !!

高江小学校に新しい仲間が加わりました。1年生の石嶺賢斗さんです。賢斗さんはタイ国に居住していたため、新型コロナウイルスなどの影響で帰国が遅れ、新年度4月の入学に間に合いませんでした。帰国を機に高江に移住し10月1日より本校へ通うことになったことから、入学式を経験していなかった賢斗さんを在校生・職員みんなで温かく迎えようと、入学式PARTⅡを実施することにしました。

少し緊張した様子もありましたが、しっかりと自己紹介ができた賢斗さん。在校生からのメダルや花束をもらって笑顔での入学式となりました。賢斗さんの入学で在籍も7名となり、これでやっと「みんなちがってみんないい!」それぞれの児童が七色に輝く「虹の学校」がスタートできました。新しいクラスメイトができた八満さんも嬉しそうに高江小学校のことをいろいろと教えてくれています。

♥賢斗さん! いっしょに楽しくいろいろな勉強や運動ががんばりましょうね😊😊



(25) 毎日新聞 2021年(令和3年)10月6日 水曜日 玉京



琉球新報にも掲載されました!

読書の秋! 読書月間がスタートしました!

◎ 中国・唐代の文人である韓愈(かんゆ)が残した詩の中に、「燈火(とうか)親しむべし」という一節があります。その意味は、「秋になると涼しさが気持ち良く感じられ、あかり(燈火)になじむようになる」。つまり、秋は読書に一番適した季節であるということを表したこの言葉が、読書の秋の由来とされています。読書月間の今月、学校でも図書館を中心にいろいろな取組が実施され、子どもたちが読書の楽しさや大切さを知ることができるよう活動が工夫されています。

読書は、国語力を構成している「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」「国語の知識等」のいずれにもかかわり、これらの力を育てる上で中核となるものです。読書習慣を身に付けることは、国語力(学力)を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力にもなります。文学作品を読むことに限らず、自然科学・社会科学関係の本や新聞・雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する本を読んだり、図鑑や辞書を紐解くことも重要な読書活動です。また、読書は子どもの豊かな心を育むという面においても大きな役割を果たしています。家庭で小さいうちから読み聞かせをしたり、ゆっくりと絵本を見たり、本を読む体験をすることがとても大切です。幼児期からゲームやテレビなどのメディア浸けにされている子どもと、読み聞かせで育った子どもとでは、情操面での発達に大きな違いが出てきます。

スマホ等の電子機器が普及し、「活字離れ」「読書離れ」が叫ばれていますが、これからの時代を考えると、読書の重要性が増すことはあっても減ることはないと考えます。情報化社会の進展は、自分でものを考えずに断片的な情報を受け取るだけの受け身の姿勢を子どもたちにもたらしやすいと思います。これからの先行き不透明な時代、自分でものを考え、判断し、行動する必要があるからこそ、読書が一層必要になるのであり、「自ら本に手を伸ばす子供を育てる」「読書習慣を身に付けさせる」ことが切実に求められています。保護者の皆さま! 子どもたちといっしょに読書(読み聞かせ)をする時間をつくったり、いっしょに本屋さんや図書館に出かけて、読書の楽しさと出逢うきっかけをつくってあげましょう。 【再掲】



ゆんたくタイムもにぎやかに♥

♥図書室に新しい管理システムが導入され、本の検索の他、貸し出しや返却もバーコードで行うことが出来るようになりました。保護者・地域の皆様もぜひ本校図書室へ足を運ばれて、読書の秋を楽しんでみませんか? 読み聞かせボランティアも募集しています!